

教育の推進 小中一貫	中期（3年間） 経営目標 【 】は主任・主事	短期（今年度） 経営目標 【1/3】	目標達成のための 手立て	評価指標	自己評価		学校関係者評価		改善計画
					7月 評価	結果と課題の説明 (実割合：%)【達成率：%】	7月 適正	意見等	改善案
確かな学力	主体的に学習に取り組み、基礎学力を身に付けた児童を育てる。 【村上】 小畑 市岡	「基礎・基本」の学力を身に付けた児童にする。	<ul style="list-style-type: none"> 学習者基点の授業づくりの励行 意欲的に行える昼ドリルの実施 家庭学習をやり切らせるための取組を実施 職員による授業の相互評価 	<ul style="list-style-type: none"> 国語科、算数科、理科の単元末テストの平均点が全国平均以上の児童85%以上 観点別学力到達度診断標研式CDTの平均点が全国平均以上の児童80%以上 家庭学習をやりきった児童の割合80%以上 職員の授業評価の肯定的割合80%以上 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○単元テスト平均点が、全国平均以上の児童の割合 国語 (81%)【95.2%】 算数 (81%)【95.2%】 理科 (86%)【101.1%】3、4、5、6年 平均 (82.6%)【97.1%】 3教科すべて8割を超え、今後の平均値の向上に期待したい。ただし、学年によって平均値に差があるため、重点的に支援することも考えられる。 ○CDTテスト2月実施予定 ○決められた家庭学習時間が守られた。 (72.1%)【90.1%】昨年度→67.2%【84.0%】 ○職員の授業評価の肯定的割合 (85.7%)【107.1%】 	○	<ul style="list-style-type: none"> ○ICT機器の導入に伴って、児童の情報モラル教育を充実させてほしい。 ○寺子屋あさひ存続のために、人員募集で地域の回覧板などの呼びかけを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○1学期の授業研究課題に焦点を当てて、2学期以降も指導案検討を行う。特に、課題の大きい教科の領域や児童への手立ての工夫を考慮し、授業力向上を図る。 ○1学期の家庭学習の状況をもとに家庭連絡や学年通信等で、再度家庭学習についてのねらいや目標時間等を話し、協力をお願いする。 ○ドリルタイムでは、引き続き、計算力・漢字力の基礎を養う。また、百人一首や言葉遊び、読書などの時間を十分に確保し、語彙力の向上を図る。 ○タブレット導入前の職員研修やICTを活用した授業を積極的に導入していく。
						<ul style="list-style-type: none"> 職員の肯定的評価の割合 あいさつ48.3%【60.4%】 返事53.2%【66.6%】 チャイム席78.7%【98.4%】 掃除74.1%【92.6%】 ・4月に挨拶運動を行い、レベル5の挨拶の手本を示した。7月に児童会中心に「レベル3の挨拶」を生活目標として取り組んだ。具体的な回数を目指に取り組むことで進んで挨拶をする児童が増えた。しかし、ソーシャルディスタンスなど課題も多く、十分に組み立てていない。 ○挨拶・返事（レベル3以上） 84.7%【105.9%】（児童アンケート 以下「児童」） ・家庭や地域の人に挨拶をしている 77.2%【96.5%】（保護者アンケート 以下「保護者」） ・子どもに挨拶をするよう声をかけている 93%【116.3%】（保護者） ・大きな声で返事をしている。 78.5%【98.1%】（児童） 80.9%【101%】（保護者） ○時間を守る 83%【103.8%】（児童） 99.4%【124.3%】（保護者） ○掃除・整頓 ・時間いっぱい無言で掃除をしている 94.4%【118%】（児童） ・整理整頓ができる 37.3%【46.6%】（保護者） 			
<ul style="list-style-type: none"> 児童会の月目標による学級ごとの取組の実施 あいさつ運動、掃除強化週間の設定・実施（年間3回ずつ） 自己評価、他者評価の活用（児童・保護者・地域アンケート）（年間2回以上） 	<ul style="list-style-type: none"> 旭小3つの宝（挨拶レベル3以上）・返事、時間を守る、無言掃除 職員による定着見取り80%以上（毎学期） 児童、保護者・地域アンケートの肯定的評価80%以上 								
豊かな心	自律の心を育み、社会性を身に付けた児童を育てる。 【山下】 栗田信 大原	明るい挨拶・返事と正しい言葉遣いのできる児童にする。	<ul style="list-style-type: none"> 児童会の月目標による学級ごとの取組の実施 あいさつ運動、掃除強化週間の設定・実施（年間3回ずつ） 自己評価、他者評価の活用（児童・保護者・地域アンケート）（年間2回以上） 	<ul style="list-style-type: none"> 旭小3つの宝（挨拶レベル3以上）・返事、時間を守る、無言掃除 職員による定着見取り80%以上（毎学期） 児童、保護者・地域アンケートの肯定的評価80%以上 	2	<ul style="list-style-type: none"> 職員の肯定的評価の割合 あいさつ48.3%【60.4%】 返事53.2%【66.6%】 チャイム席78.7%【98.4%】 掃除74.1%【92.6%】 ・4月に挨拶運動を行い、レベル5の挨拶の手本を示した。7月に児童会中心に「レベル3の挨拶」を生活目標として取り組んだ。具体的な回数を目指に取り組むことで進んで挨拶をする児童が増えた。しかし、ソーシャルディスタンスなど課題も多く、十分に組み立てていない。 ○挨拶・返事（レベル3以上） 84.7%【105.9%】（児童アンケート 以下「児童」） ・家庭や地域の人に挨拶をしている 77.2%【96.5%】（保護者アンケート 以下「保護者」） ・子どもに挨拶をするよう声をかけている 93%【116.3%】（保護者） ・大きな声で返事をしている。 78.5%【98.1%】（児童） 80.9%【101%】（保護者） ○時間を守る 83%【103.8%】（児童） 99.4%【124.3%】（保護者） ○掃除・整頓 ・時間いっぱい無言で掃除をしている 94.4%【118%】（児童） ・整理整頓ができる 37.3%【46.6%】（保護者） 	○	<ul style="list-style-type: none"> ○地域では、自分から挨拶ができる児童が大変少ないとのこと。家庭とも連携しながら、挨拶の大切さを指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○2学期も児童会で生活目標を設定し、具体的な数字を基に各学級で挨拶に取り組む。 ・1日に自分から進んで10人以上の人に挨拶する。 ・9月から学級毎の挨拶運動を行う。 ○児童会で生活目標を設定し、進んで時間を守ることができるようにする。 ・3分前行動をし、チャイムとともに授業を始める。 ○2学期も継続して縦割り班掃除に取り組む。 ・高学年が、低学年へ掃除の指導を行う。 ・低学年の手本となることで高学年の意欲を高める。 ・毎日掃除の反省を行い、意欲的に時間いっぱい掃除を行う。 ・機会を捉えて、整理整頓の時間を設けたり係を中心に整理整頓を意識させたりする。

<p>頑張る体力</p>	<p>健康で丈夫な心と体づくりを推進する。 【青山】 川下 井上</p>	<p>毎日元気に学校に来る児童にする</p>	<ul style="list-style-type: none"> 体を動かす遊びを推奨する（元気タイム、旭showタイム）。 保健指導と特別活動で心と体の健康を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> 元気タイムで体を動かす遊びをする児童を100%。 一日一回体を動かす遊びをする児童を低学年100%、中学年90%、高学年80%。 不登校児童0。 	<p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体を動かして遊ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・7月の元気タイムは、各クラスで担任が「外遊びをするように」と声をかけ、児童とともに遊んだため99%の児童が外で遊ぶことができた。 ・一日一回体を動かして遊んだ児童は全体で85.9%であった。低学年は92%、中学年は92.3%、高学年は49.6%で中学年は目標を達成できた。放送で外遊びを推奨したり、担任が声掛けをして一緒に遊んだりしたことや、学級レクリエーションなど集団作りが効果的であったと考える。 ○心と体を健康にし、休まないこと。 <ul style="list-style-type: none"> ・不登校児童は0人である。しかし、登校渋り傾向の児童が6名、保健室登校の児童が3名いる。登校渋り傾向の児童に対しては、担任が家庭と連携を取り、信頼関係を築きながら対応している。保健室登校の児童に対しては、複数教職員で関わり、安心な居場所作りと学力補充に努めている。また、SCやSSWと連携をし、アドバイスを受けた。 	<p>○</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○登校渋りの児童の要因は複雑であり、家庭や地域でも支援できることがあれば協力したい。 ○新型コロナウイルス感染症拡大防止対策はどのようにしているのか。今後、児童が感染した場合、誹謗中傷が心配である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○体を動かして遊ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・熱中症とコロナ感染予防の両対策を取りながら、外遊びを推奨していく。児童会の縦割り活動を意識した異学年での遊びも推奨していく。 ・気温が下がってきたら、旭showタイム(ダンスタイム)を始める。 ○心と体を健康にし、休まないこと。 <ul style="list-style-type: none"> ・特別活動で居心地の良い学級・学級集団作りと、心と体の健康について考え合う学習を取り入れる。 ・登校渋り児童と保健室登校児童には、SCやSSWと連携を取りながら学校全体で意識を統一し、児童の自立の支援に最善を尽くしていく。 ・各学級で、コロナウイルス感染症に係る児童への指導をし、組織体制を整える。
<p>地域と創る学校</p>	<p>保護者や地域からの信頼に応える学校づくりをめざす。 【大垣】 葉田葵</p>	<p>地域とともにある学校をつくる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程を見直し、地域「人財」を活用する学習の明確化 ・児童を主体とする地域行事の紹介と参加の呼びかけ ・保護者アンケートの実施（年2回） ・保護者アンケートから明らかとなった課題に対する改善策の検討・発信 ・積極的な情報発信（各種たより、ホームページ等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートの肯定的評価90%以上 ・地域行事に参加した児童90%以上 ・地域と関わる活動・学習（地域から学校・学校から地域）を全学年で必ず行う。 	<p>2</p> <ul style="list-style-type: none"> ○特に「総合的な学習の時間」の探究課題を見直し、地域と関わる学習を各学年に位置付けた。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により、予定通りに行えていないという現状がある。 ○学校評価アンケートの結果（保＝保護者対象、児＝児童対象） <ul style="list-style-type: none"> ・子供の思いや保護者の声を聞こうとしている（保）(89.3%)【99.2%】 ・HP・学校だより等で情報提供をしている（保）(96.9%)【102.1%】 ・家庭や地域で安全に気を付けて生活している（保）(93.1%)【107.6%】 ・地域行事に参加している（保・児） 保：(88.6%)【98.4%】 児：(86.5%)【96.1%】 ・地域や社会をよくするために何をしたらよいか考えている（保・児）(69.5%) ・自分の住んでいる地域のよいところを人に伝えられる（児） 保：(63.9%) 児：(67.3%) 〈寄せられた意見で多かったもの〉 <ul style="list-style-type: none"> ・コロナでいろいろな行事が中止になったのが残念。 ・休業中の宿題を見るのが大変。 ・学習が遅れないか不安。 ○結果の説明 コロナ禍の影響で学校も地域も行事が軒並み中止になっているため、数値が前年度よりも低くなっていると思われる。 学校評価アンケートの下2つの項目は、今年度から設定したが、「地域」への意識が予想よりも低かった。今後、この数値を上げていくことがC・Sとして重要だと考える。 もし、今後も長期間休業を余儀なくされる場合、家庭での学習の行い方は熟考しなければならない。 	<p>○</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○地域でもこれまで通りには行事を行えていない。しかし、行い方を工夫することで、できることは続けているという現状である。（いもほりや草取り） ○「わくわく子ども教室」もC・Sの取組として行ってもよいのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「密」になることを避けなければならないため、校外の方と関わる学習に二の足を踏んでしまうが、感染症対策を工夫することで実施できるようであれば、実施していく。 ○生活科や総合的な学習の時間等で、「地域」に関わる学習を行った際は、「学習したことを生かしてどのようなことをしていきたいか」や「自分のしていることが地域に役立っている（いく）」と実感できるような仕掛けを充実していくよう、職員に周知する。 ○休業に備えて、リモート学習の方法やアプリケーションの使用方法等について、校内で研修及び、実践を重ねているところである。